

特集

動物園の飼育員に 密着取材！

市内外から多くの方が訪れるかみね動物園。来園された方々に動物たちの元気な姿を見せようと、飼育員は日々、奮闘しています。今回は、子ども通信員の3人が、猛獣舎「がおーこく」やキリン舎を担当する飼育員・風間さんの1日を追いました。

飼育員ってどんなお仕事をしているの？

飼育員
風間健心さん

子ども通信員
池田絢音さん

子ども通信員
大山陽向さん

子ども通信員
井上璃空さん

Start!

1 朝礼

午前8時30分、飼育員の1日は、スタッフ全員での朝礼から始まります。その日のイベントの予定や動物たちの体調など、みんなで情報を共有する大切な時間です。

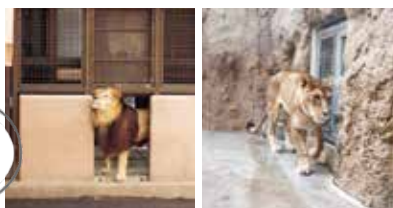


2 開園準備

朝礼後には各舎の安全を確認！「扉の鍵がかかっているか」「ガラスは割れていないか」などを、必ず2人体制で確認します。



↑キリン舎の寝室に潜入！すぐそこにキリンが！



↑安全確認後は、動物たちを寝室から展示スペースへ移動させます。

猛獣舎の寝室は、頑丈な鉄格子に囲まれています！

動物が脱走したら？

動物の脱走はあってはならないことですが、万が一起こった場合に備えて、職員間で対応方法の共有をしたり、対策訓練を行ったりしています。



訓練の様子。遮断網で道を塞ぎ、車で壁まで追い詰めたら麻酔銃で眠らせ、捕獲します。

誰が一番？

動物園エサ代ランキング

かみね動物園でエサ代が高額となる動物TOP3をご紹介します！

第1位 ゾウ



とにかく食べる量が多く、乾草、サツマイモ、ニンジンなどを1日に約100kgも食べます！糞の量も1日70～80kgと、見た目通りスケールの大きな動物です。

約5,000円/日

第2位 トラ・ライオン



約2,000円/日

牛肉、馬肉、鶏肉などを、多い個体は1日に約7kg食べます。量もさることながら、エサの単価が高いことが、第2位となった理由といえます。

第3位 チンパンジー・クマ



約1,500円/日

チンパンジーは飼育数が多く（8頭）、クマは食べる量が多い（1日約16kg）ため、それぞれ第3位にランクイン！共に野菜や果物、枝葉やペレットなど、色々なものを食べます。

次ページに続きます



運が良ければ
大迫力の食事シーンが
見られます！



3 寝室の掃除

開園後は、動物たちに気持ちよく過ごしてもらうため、寝室を毎日きれいにします。猛獣舎とキリン舎を行ったり来たりと大忙しの風間さん。



4 エサづくり

掃除の合間や後には、動物たちのエサづくり。猛獣は夕方に1回、キリンは常にエサがあるように、適宜補充します。



↑猛獣たちのエサは、牛肉・馬肉などを与えます。カルシウム豊富な鶏の頭もトッピング！



←キリンはマテバシイやスダジイの葉などが大好物。部屋に設置するエサは高い所に吊るし、野生の状態にできるだけ近づけます。

←猛獣たちは閉園後に食事をとりますが、お昼の時間にお客さんの前でエサを与えることもあります。



↑猛獣舎の上からエサを吊るして与えます。



↑注射などの訓練の一環でエサを与えることも。

最新情報や動物の様子など
動物園のSNSをチェック

Twitter や Facebook、各スタッフのブログでは、動物たちのさまざまな様子や、飼育員の奮闘記・裏話などを掲載しています！ぜひご覧ください。



5 デスクワーク

午後はデスクワークを中心とした作業となります。動物園で行うイベントの企画や準備、ブログの作成などを行います。



↑飼育員がアイデアを出し合う企画会議。動物園で行われているさまざまなイベントは、ここで生み出されます。

かみね動物園のイベントをご紹介します



かみね・おもしろ ZOO サロン

那須どうぶつ王国・神戸どうぶつ王国園長の佐藤哲也さんのお話を聞けます。

- とき** 2月25日(土) 午後1時30分～3時
- ところ** かみね動物園どうぶつ資料館
- テーマ** ライチョウ山へ帰る
～動物園の保全活動～
- 定員** 50人(要事前申し込み)

*詳しくは右記QRをご覧ください。



大人気！！

もぐもぐタイム

毎日実施している「もぐもぐタイム」では、カピバラ、エゾヒグマのエサやり体験のほか、キリンやペンギン、チンパンジーなどの動物の食事の様子を見ることができます。



6 閉園

この時期(11月～2月)は午後4時15分に閉園。動物たちを寝室に戻し、展示スペースを掃除します。3月から10月までは、午後5時が閉園時間になります。



お疲れ様でした！

7 業務終了

最後にその日1日の仕事内容や、動物の様子などを日報に書いて、本日の業務は終了です！



今しか見れない！？ 冬の動物園の楽しみ方

冬は、比較的すいていることが多く、ゆっくりと動物たちを見ることができます。また、夏とは動きや生活が異なる動物も多く、この時季にしか見られない動物の姿を見ることがもできます！



冬の動物園の風物詩「サル団子」。体を寄せて温め合う様子は、寒い冬ならではの光景です。



ホンダタヌキは、冬になると脂肪を蓄え、フサフサの毛に覆われたかわいらしい姿に変わります。

取材を終えて

飼育員さんの愛情を受けて生き生きと暮らす動物たちの姿を、ぜひ見にきてください！！



水木小学校 6年
いのうえ りく
井上 璃空 さん

特に印象に残ったことは、飼育員さんの大変さです。キリンの部屋は3つありますが、大量に落ちている糞を丁寧に掃除していました。また、外だけではなく部屋の中にもキリンが好きな枝葉を吊るしているなど、キリンが過ごしやすい空間を整えていました。猛獣舎では動物同士の関係を考えて部屋を分けていました。飼育員さんの動物への愛情を感じました。



大沼小学校 6年
おおやま ひなた
大山 陽向 さん

猛獣舎の動物には、赤ちゃんのときは肉を小さくしてあげますが、大人はあごの筋力を維持するため、大きいままであげます。また、ツメは基本は切らずに木でとがせるなど、猛獣の生態や飼育方法などを知ることができ、今まで以上に動物に興味を持つことができました。また、猛獣舎の上から肉を吊るして食べさせる様子は、とても迫力があるので、友達にぜひ紹介したいです。



金沢小学校 6年
いけだ あやね
池田 絢音 さん

猛獣舎では、多い動物でお肉を1日に7kg食べることや、雨の日などでも動物を見ることが出来るサブスペースがあることが印象に残りました。飼育員さんは、キリン舎と猛獣舎をずっと行き来し、階段を上がったり下がったりと大変そうでした。私たちがいつも元気な動物の姿を見れるのは、飼育員さんが見えないところでがんばっているからだを知ることができました。

私たち飼育員の大きな役割の一つは、来園された方に、できるだけ野生に近い、動物たちの生き生きとした元気な姿をお見せすることです。そのためには、動物たちが毎日を快適に過ごせるようにすることが重要です。エサの与え方や空間づくり、他の動物との関わりなど、さまざまなお考え、試行錯誤し、動物たちの小さな変化にも気づかなければなりません。簡単ではありませんが、とてもやりがいを感じますし、そこに飼育員の楽しさがあります。

幼い頃、両親に連れていってもらった動物園で感じたワクワク感。それが、私が飼育員になろうと思ったきっかけです。かみね動物園を訪れた子どもたちにも、動物たちを見てワクワクし、さまざまな発見をして、より動物たちに興味を持ってもらえたらうれしいです。私たちが愛情を注ぎ、生き生きと元気に暮らす動物の姿や、動物園のさまざまなイベントを通して、お客様と動物たちをつなげられるように、これからもがんばります。

お客様と動物をつなげられる飼育員に

-Interview-



かみね動物園 飼育員
風間 健心 さん



ZOO
日立市かみね動物園
☎ 22-5586 FAX 22-5596

開園時間 午前9時～午後4時15分
(3月～10月は午後5時まで)
料 金 大人(高校生～64歳) 520円
子ども(4歳～中学生) 100円
*3歳以下、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料